令和7年度 東京都立北特別支援学校経営計画

校長 村上 卓郎

1 目指す学校像

一人一人の人権を尊重し、障害の状態や病状に応じ安全で安心して学べる環境の中、教職員、外部専門家、病院関係者等が連携して専門的な教育を行い、地域の中で自分らしく社会参加・自立していく児童・生徒の育成を目指す

2 中期目標と方策

創立60周年が過ぎ、これまでの本校の取組を踏まえ、新たな時代や児童・生徒一人一人に応じた専門性の高い教育活動を行う学校をつくる。

(1) 児童・生徒一人一人の障害・病気の状態や学習進度等に応じた専門的な指導の充実

- ・研修、授業研究、外部専門家の助言等による教員の指導力の向上
- ・教員と学校介護職員・病弱教育支援員が協働して指導する教育活動の充実
- ・個々の状況に応じた一人一台タブレット端末などの ICT 機器の活用やオンラインを活用した授業等の充実
- ・児童・生徒の興味・関心を広げ、社会とつながった豊かな生活をつくる取組の推進
- ・清潔で学習効果の高い教室・校舎内環境の整備

(2) 安全な学校づくり

- ・児童・生徒の人権を守り体罰・不適切な指導、いじめのない学校づくりの推進
- ・児童・生徒の負傷事故防止に向けた取組の充実
- ・安全な医療的ケアの実施に向けた体制の整備・充実
- ・感染症対策を取った安全な教育活動の実施
- ・地域関係機関とも連携した災害・防犯対策の整備
- ・スクールバス会社と連携した安心・安全なスクールバス運行の実現

(3) 地域、関係機関等と連携する体制づくり

- ・日常的な指導と関連させた、本人・保護者、関係機関、学校による組織的な進路指導の推進
- ・前籍校や病院との継続的な連絡体制を踏まえた復学支援、進路指導の充実
- ・学校生活支援シートを活用した本人・家庭や主治医、関係機関等との連携
- ・本人・保護者の希望や交流校の状況に応じた副籍交流や学校間交流等の実施
- ・小・中学校、高等学校に対するセンター的機能の発揮

(4) 都民から信頼され、教職員自身の働きがいがある学校組織づくり

- ・部門内組織的運営を踏まえた両部門間協力の実施

- ・教員一人一人の担当を明確にした業務分担とライン組織による業務遂行
- ・経営企画室職員の専門性を生かした教員との連携・協働
- ・予算配付状況を踏まえた適宜・適切な予算の執行と予算案の策定
- ・教職員の服務事故0等による本人・保護者・都民からの信頼維持・向上
- ・教職員のライフ・ワーク・バランスを図るための取組の実施

3 今年度の取組目標と方策、数値目標

(1) 学習指導の充実

- ① 教員が自らの課題等に応じて選ぶ研修等により、指導力の向上を図る。
- ② 学校介護職員の研修会を行い、指導補助や介助方法等についての専門性を高める。
【肢】
- ③ 昨年度まで研究活動で重ねた絵本を用いた授業のカード作成・精選を続け、国語・数学（算数）の授業の充実を図る。【肢】
- ④ 準ずる教育課程におけるデジタルを活用した他校との共同学習を推進して、少人数による指導の充実を図る。（指導部指定事業）【肢】
- ⑤ 全校において、外部講師等を活用し学習評価の理解に基づいた教科指導力の向上を図る。
- ⑥ 計画的な授業や指導が行えるよう、次年度の授業の年間指導計画を2学期までに作成する。
- ⑦ 研修やICT支援員（デジタルサポーター）の活用、保護者向け説明会等により、一人1台配備のタブレット端末やアプリなどの活用を促進する。特に重度の児童・生徒の活用について、他校の情報も得て取組を向上させる。
- ⑧ オンラインによる児童・生徒同士や外部とつないだ計画的な教育活動を行い、年齢や興味・関心等に応じた病院内での学習を充実させる。【病】
- ⑨ 学校介護職員・病弱教育支援員と教員が、児童・生徒の情報共有を図り学習効果を高める。
- ⑩ 年間授業時数や単位数、学習内容を検討して部門別に教育課程の検討を行う。

(2) 自立活動の充実

- ① 外部専門家等を活用した教員の指導力向上を図る。【肢】
 - ・自立活動部教員の指導・助言を受け、担任主導による指導計画の作成、指導、評価を行う。
- ② 部門ごとの自立活動に関わる基本的な内容について研修を行い、障害に応じた指導の専門性向上を図る。
- ③ 「楽しく学習するためのアンケート」を活用しながら、自立活動の指導の充実を図る。【病】

- ④ 精神疾患のある児童・生徒への指導や対応について、教職員の専門性を高める。【病】

(3) 児童・生徒の人権が尊重され、安全で安心して過ごせる学校づくり

- ① 自己申告面談や体罰聞き取り調査、研修などをおして、体罰や不適切な指導のない教員集団をつくる。
- ② 日常的な注意喚起や部門・学部等に応じた研修を行い、児童・生徒の負傷等事故0を目指す。
- ③ スクールカウンセラーによる児童・生徒、保護者、教職員の相談体制を構築し、成長や指導・指導・支援の充実を図る。【新規】
- ④ 様々な状況を想定した不審者対応訓練や研修を行うとともに、不審者侵入を防ぐ取組を継続させる。
- ⑤ 衛生面に配慮し学習環境にふさわしい場となるよう、「環境整備マニュアル」に基づいた校舎内の整理・整頓を行う。【肢】
- ⑥ スクールバス安全運行支援員や都立学校車両運行業務支援員（バスクラーク）を活用し、学校とバス会社とが連携し、児童・生徒、保護者にとって安全・安心なスクールバス運行を行う。【肢】
- ⑦ 「人権教育プログラム」の内容を踏まえた研修を行い、教職員の人権意識を高める。

(4) ガイドラインに基づいた安全な医療的ケアの実施【肢】

- ① 看護師、教員、学校介護職員が役割を果たし、保護者とも連携して事故0を目指す。
- ② 注入に関わる事故をなくすための本校の基本的な注入方法等について保護者に周知し、協力を求める。
- ③ 教員や学校介護職員による注入や吸引を行い、教職員の医療的ケアに関する意識を高めるため、強化月間を定め看護師の足りない状況や災害時等にも対応できるようにする。
- ④ 医療的ケアに関わる保護者付添い期間の短縮に向けた取組を行う。令和8年度入学する医療的ケア児の健康観察などを就学前から計画的に進める。
- ⑤ 医療的ケアや児童・生徒の体調管理に役立てるため、学校看護師による関係機関との連携、研修などを行う。

(5) 進路指導、復学支援の充実

- ① 進路指導部、進路専任と連携し、担任・学年主任が進路指導の基礎的な内容を研修し、日常的な児童・生徒への指導、保護者への情報提供や相談ができるようにする。
【肢】
- ② 学校としての就労や進学に向けた具体的な進路指導の計画を作成し、実施する。【肢】
- ③ 外部人材を活用して、卒業後の生活を意識した作業学習や生活単元学習等の充実を

図る。【肢】

- ④ 教職員や保護者へ、進路や卒業後の生活についての情報提供や研修を行う。【肢】
- ⑤ 前籍校や病院との情報交換を継続的に行い、内容を教職員間で共有し組織的な対応を行う。特に高等学校への進学指導について、計画的に行う。【病】

(6) 児童・生徒の興味・関心をひろげ、生活を豊かにする取組の実施

- ① 外部図書館司書を活用し、図書室や図書コーナーの整備、教職員向け朗読研修を行うとともに、児童・生徒が本に親しむ機会を設ける。
- ② 東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、全校児童・生徒がスポーツを通して交流する「全校ボッチャ大会」を行う。
- ③ 展覧会やコンクールへの応募やオセロ大会等への参加などにより、一人一人の個性や得意なことを学校外で発揮できる場を広げる。
- ④ スポーツクラブの活動により、大会参加やスポーツに親しむ機会を設ける。【肢】

(7) 児童・生徒の生活支援と地域、関係機関との連携

- ① 学年主任・担任とコーディネーター、学部主幹等が連携した支援会議を適宜実施し、内容に応じて継続した支援を行う。
- ② 本人・保護者の希望や相手校の状況に応じた様々な方法での副籍交流、学校間交流を行う。【肢】
- ③ 「特別支援教育の理解促進に向けた障害者スポーツを通じた交流」を都立王子総合高校と行う。【肢】
- ④ 教員が学校生活支援シートの意義を理解して作成し、保護者への活用に向けた情報提供を行う。【肢】

(8) 地域とも連携した災害対策の推進

- ① 北区との災害協定に向けた協議を進めるとともに、「学校災害マニュアル」「事業継続計画（BCP）」を改訂し、災害発生に備える。
- ② 様々な状況を想定した避難訓練や宿泊防災訓練の実施などから、災害時に必要な体制や物品を整備する。
- ③ 宿泊防災訓練で扱っていた内容を「地域・関係機関等と連携した防災訓練」に移行する検討を行う。

(9) 保護者等への情報提供等の充実

- ① 「学校だより」、ホームページ、X、活用した保護者等への情報提供を行う。
- ② 保護者宛ての学校からの文書等について、個人情報を除いてクラッシー（Classi）を使い、紙での配布物の削減を進める。

- ③ 日常的な学習状況等を保護者に伝えるとともに、保護者会、個人面談等により保護者に応じた丁寧な情報提供を行う。【病】

(10) 病弱教育部門の組織強化【病】

- ① 病弱教育部門の教育目標、各学部等の教育目標に基づいた教育課程等の変更について計画的に指導部等に相談を行い、令和8年度からの実施を目指す。
- ② こだま分教室と病院訪問学級教職員が、課題等の共有や研修での連携が図れるよう、会議設定等を行い、部門内の組織的な運営を行う。
- ③ 各病院での教育活動がスムーズに行えるよう、病院との連絡会やカンファレンスに担当者が参加し、その情報を教職員間で確実に共有し、対応を確認する。

(11) 信頼される教職員と働きがいのある組織運営の実現

- ① 「業務分担表」に基づいて分掌部内の計画的、効率的な業務遂行を行う。
- ② 指導や業務の実際に応じた形で、年次研修、校内新転任研（年度途中臨時的任用教員を含む）を実施する。新規採用教員についてはメンターを指名し、疑問に思ったことなどをすぐに聞ける環境を整える。
- ③ 計画的な教育活動を行い、教員と経営企画室が連携して徴収した教材費等を確実に執行する。
- ④ 行政系職員の児童・生徒や指導理解のため、授業見学の機会を設ける。
- ⑤ 日常的な注意喚起と年3回以上の研修会を行い、教職員の服務事故0を目指す。
- ⑥ 定期的な個人情報管理ルールの周知と想定される事故例の共有などにより、個人情報に関する事故の未然防止に努め、事故0を目指す。
- ⑦ 都立学校教職員にふさわしい儀式的行事や研修等における身だしなみ、校内外での挨拶、行動を心がける。
- ⑧ 東京都教育委員会とも連携し、外部専門機関からのアドバイスを受け業務改善を図り、指導の充実や教員の働き方改革を進める。
- ⑨ 「教職員アウトリーチ型相談事業」（都指定）や産業医面談などを活用し、教職員の心身の健康維持を図る。